

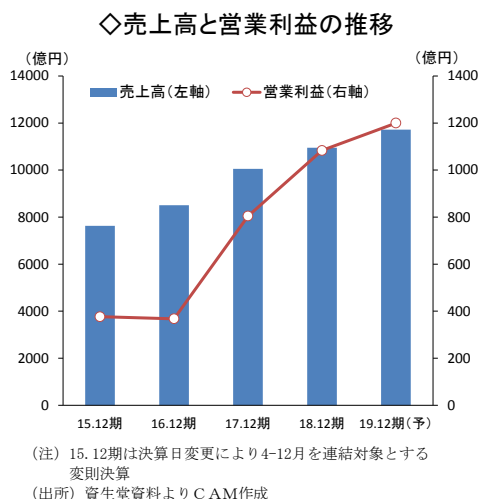
企業ニュース 資生堂

(東証1部 : 4911) <https://www.shiseidogroup.jp/>

作成者: 荒木晶子

中期経営計画の数値目標を上方修正

1872年創業の化粧品メーカー。18.12期のセグメント別売上高構成比は、日本42%、中国17%、アジアパシフィック6%、米州12%、欧州10%、トラベルリテール（機内販売や空港免税店など旅行者を対象とする販売）8%、プロフェッショナル2%、その他3%。18.12期決算発表時に、中期経営計画最終年度である20.12期の目標数値を上方修正した。売上高は2018年3月5日公表の前回計画比900億円増の1兆2,900億円、営業利益は同300億円増の1,500億円とした。18.12期は商品供給が間に合わず、会社側は売上高で400~500億円の販売機会ロスがあったと推定している。2021年末までに那須、大阪、九州福岡に新工場を設け、供給体制の強化を図る。



19.12期は持続的な成長に向けた投資を強化する

18.12期の連結業績は、売上高が1兆948億円、前期比9%増、営業利益が1,084億円、同35%増。営業利益は1,000億円を超えたものの、計画に対して17億円未達だった。売上高は各セグメントで増加（事業譲渡の影響を除く実質ベース）、特に日本、中国、トラベルリテールが貢献した。注力した高価格帯のプレステージブランドは同16%増となった。第4四半期（10-12月）は、19.12期以降の成長維持・拡大に向けて、マーケティング投資やブランド研究開発投資を強化した。

19.12期の通期会社計画は、売上高が1兆1,720億円、前期比7%増、営業利益が1,200億円、同11%増。引き続きブランドの選択と集中を進め、主要ブランドを育成する。不透明な事業環境の中でも成長を維持できるよう投資を強化、マーケティング投資は同13%増を想定している。また、国内外の需要増加に対応するため、サプライチェーンの強化にも取り組む。1月の速報値によると日本と中国の売上高は堅調なスタートを切った模様であり、今期も収益貢献に期待したい。

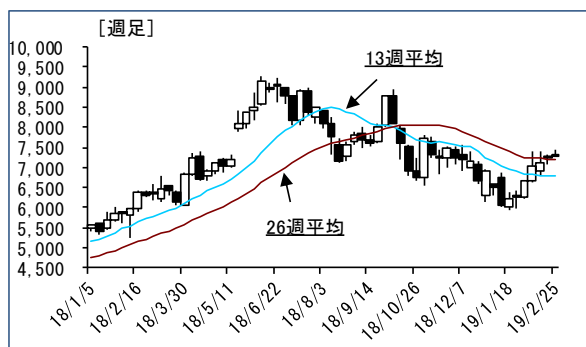
[株価動向・投資判断]

好調な業績が好感され、株価は上昇している。インバウンド需要の鈍化懸念や供給制約などの課題解決に向けた投資により、中長期での持続的な収益成長が期待できよう。

<4911 資生堂 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.12	1,005,062 (18)	80,437 (119)	80,327 (116)	22,749 (▲ 29)	57.0	27.50
18.12	1,094,825 (9)	108,350 (35)	109,489 (36)	61,403 (170)	153.7	45.00
19.12 予	1,172,000 (7)	120,000 (11)	120,000 (10)	75,500 (23)	189.0	60.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2019/2/25)	7,331 円
昨年来高値 (高値日)	9,250 円 (18/6/7)
同 安値 (安値日)	5,254 円 (18/2/6)
予想 P E R (19.12 予)	38.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,123.2 円
P B R	6.53 倍
予想配当利回り	0.82 %
(1株当たり配当金 60.00円)	
R O E (18.12)	14.1 %
発行済み株式数	40,000 万株